



## 医学部をとりまく人達が “All Win” になることを目指す

山梨大学医学部長 中尾 篤 人

昨年（平成29年）4月から医学部長に就任した中尾です。

私は、平成元年に千葉大学医学部を卒業後、6年間アレルギー・膠原病を専門とする内科医として千葉大や千葉県内の病院で働いてきました。その後、スウェーデンウプサラ大学ルードウィッヒ癌研究所で基礎研究(TGF- $\beta$ シグナル分子SMADの同定)を行い帰国し、順天堂大学医学部に新設されたアトピー疾患研究センターを経て、平成15年本学に免疫学講座教授として赴任しました。順天堂に移ってからはアレルギーの基礎研究にほぼ特化して仕事をしています（ちなみに自分が喘息患者です）。なお救急部の松田教授は千葉大の同級生です。

さて、何はともあれ、医学部長の第一の仕事は、学生、教員、事務員にとって勉強や研究・仕事のやりやすい快適な環境を作ることと思っています。そのため医学科・看護学科の教育内容の見直し、卓越した教員の採用、予算の効率的運用・増額の試み、無駄な会議や仕事の軽減、ハラスメントの根絶、施設整備等々、医学部を取り巻く内外の問題解決・環境改善に向けてあらゆる方面において現在奮闘中です。

この際、一番大切と思っていることは、医学部に所属する学生、教員、事務員だけでなく、大学全体、患者さん、中央市、製薬会社、ヴァンフォーレ甲府、スターバックスなど山梨大学医学部を取り巻くすべての人達がALL WINになるアプローチを取ることです。

内部だけで閉じていると、医学部の環境を良くし、社会の中での価値をあげる斬新なアイデアが浮かびにくいですが、大きく全体を捉えることで今までにないインスピレーションが生まれると信じています。これは長年、私が基礎研究に従事してきて得てきた実感でもあります。

特に同窓会との関係は重要です。これまで医学部と同窓会の関係は正直、ごく普通の関係だったと思います。今後は、より密接にコミュニケーションを取ることで、大学にいる人だけでなく卒業した人にとっても、医学部をより身近でいつでも何でも活用・相談できる敷居の低い存在にしたいと切に思っています。このため野田同窓会長とは昨年から何度か話し合い、卒前・卒後が連動したポートフォリオの作成など医学部・同窓会間の情報共有のしくみなどの新企画をいくつか既に話しあっています。さらに本年（平成30年）は、医学部開学40周年ということで7月7日（土）に記念行事の開催も同窓会と一緒に行う予定です。このような企画・イベントを通じて同窓生の方々と医学部との距離を縮めることが、ひいては学生や卒業生の愛校心を高め、山梨県で医療に従事する医者や看護師を増やし、また世界的な研究者・臨床医を生み出す土壌となると信じています。至らない点多々あると思いますが医学部ならびに同窓会の皆さんの発展のために今後とも協力ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。